

# 篆刻アートで「気」を刻む

## 書道コース 篆刻



講師  
南岳 泉雲  
なんがく  
こううん

### 略歴

篆刻家・書家

幼少期から毛筆を握り、高野山大学文学部卒業後、篆刻の道へ。篆刻家・書家として、「書」の持つアートの可能性を探求。石を始め、空き家などの廃材を再利用して文字を彫り、それぞれの思いや気持ちを託すワークショップ「木に気を刻もう」なども行う。現在、高野山真言宗潮音寺（兵庫県淡路市）、日本篆刻家協会常務理事、読売書法会幹事、日本書芸院評議員、淡味篆会主宰。

### advice points

- 会場は、書道教室、美術教室など、水が使用できる場所を準備する。
- エプロンなどの着用が望ましい。

### より発展的な ワークショップを 実施するために

- 美術を受け入れ科目として、絵画や彫塑と比較して学ぶ。
- 地域の寺社の納経印を集めて郷土の理解につなげる。
- 篆刻や書道の展覧会を鑑賞する。

### 目的

- 自作の印(落款=らっかん)を粘土に型取りし、粘土作品(※封泥=ふうでい)を使って新たなアート作品をつくる。※封泥=印章の痕を留めている粘土の塊のこと。

### 効果

- 短時間で作品を完成させることで集中力を養う。
- 書や篆刻(てんこく)に親しみを感じ、篆刻のアート性を認識して感性を磨く。

### 到達点

- 書の幅広い芸術性を理解して制作に取り組み、完成させる。
- 多くの作品を鑑賞することで、自分の作品の完成度を再確認する。



### 事前学習

図書館で、篆刻、落款などについて調べる。

### ワークショップの流れ(2日間く2コマ/日)

中国と日本のさまざまな落款を実際に手で触れ、篆刻について解説



印材に裏向きの文字を描いて印刀で彫り、落款制作



できあがった落款を粘土に型押し、さまざまな粘土作品(封泥)を制作



粘土作品(封泥)が乾いたら色を付け、アート作品完成



作品を額に入れ、別に制作した落款を押し、鑑賞

### 事後学習

作品を自宅などに飾って鑑賞する。  
地域の寺社の納経印を集める。

### …ワークショップを実施して…

#### 講師の感想

みんな生き生きと自由な雰囲気楽しんでくれた。篆刻という硬いイメージのあるものが、アートとして広がりのあることを理解してもらえたようだ。現代のように、あまり喜怒哀楽や自己表現をしない、できない時代に、芸術の自由な発想と、自己表現力を伸ばすために、このようなワークショップは非常に重要で有益だと考える。

#### 先生の感想

ワークショップ受講後の書道の授業では、封印や印刀の運び、押印に変化をつけることなどを、生徒同士で話し合うようになるほど理解が深まっていた。書において、用具や用材も重要な表現手段となること、さまざまなところに自己表現の可能性が広がっていることを知るのに役立ったと思う。

#### 生徒の感想

- 初めはどんなものか想像がつかなかったけど、作ってみるととても楽しかった。
- 自分のかわいい印ができて嬉しかった。ものづくりにはセンスが必要だとわかった。
- みんなの作品も個性があっていいなと思ったし、書道がますます好きになった。